

第53回小糸地区文化祭 実施報告

1 開催趣旨

- ・小糸地区を拠点とする学習・文化活動の発表、多世代交流の場づくり、地域産業活性化への一助を目指し、「第53回小糸地区文化祭」を開催する。
- ・開催にあたり、地域住民（一般市民、子ども、サークル団体）の作品展示や活動成果の発表、関係機関・団体の活動紹介等を行う。

2 開催日 令和6年10月26日（土）午前9時～午後4時
10月27日（日）午前9時～午後2時30分

3 会場 小糸公民館

4 取り組み経過

- ・6/4（火）文化祭準備会議（公運審委員との意見交換会）
- ・7/4（木）第1回文化祭実行委員会（結成会議）
- ・8/26（月）第2回文化祭実行委員会
※終了後、芸能・音楽のつどい代表者会議、展示部門会議を実施
- ・8/30（金）出店者会議
- ・9/19（木）周知開始（自治会回覧、保育園・小中学校）
- ・10/21（月）文化祭会場設営

5 来場者 2日間延べ約2,800人（1日目：1,700人 2日目：1,100人）

6 参加団体・機関 小糸公民館利用サークル等37団体（一般個人参加の3名を含む）
保育園、小中学校、君津高校、消防分署等 小糸管内機関7

7 特別企画等の取り組み

（1）「20歳のつどい」実行委員による模擬店参加

①経過 「20歳のつどい」実行委員会（5月末～9月末に計4回実施）で、販売内容の検討、試作調理、チラシ作成等の準備を進めてきた。

②実施日：両日 午前9時30分～午後2時（27日は午後1時で完売）

③内容：焼きそば、フルーツポンチ、バウムクーヘンの販売

④運営人数：「20歳のつどい」実行委員・対象者 計11名

⑤成果

- ・小糸、清和、両地区の対象者が一緒に実行委員となり、両地区の文化祭に参加する流れを作ることができた。
- ・青年層の参加により、文化祭全体に賑わいが生まれた。また文化祭実行委員からは、「片付けを手伝ってくれて助かった」という声が多く寄せられ、好意的な評価が伺えた。



⑥今後へ向けて

- ・運営体制を見直すことで、中学生と20歳の世代がより交流できる内容を検討する。
- ・青年層が公民館や地域活動に参加できるよう、活動の場を今後も意図的に作っていく。
- ・保護者や地域住民の中には、「20歳のつどい」が合同開催となったことを知らない人もいるため、こうした活動を続けることで合同開催の周知や理解を促していく。

(2) 中学生スタッフによるカフェ運営

①経 過：打合せを全9回実施（7／22～11／11）

②実 施 日：両日 午前9時30分～午後3時（27日は午後1時で完売）

③内 容：パンケーキ、チョコマシュマロ
飲み物（ジュース類、コーヒー）販売

④運営人数：中学1年生12名、中学生の保護者3名

⑤成果

中学生を主体とする新しい取り組みとして試験的に行ったが、予想よりも多い参加人数となった。きっかけがあれば、中学生世代も公民館事業に参加する・参加できるという可能性を見出すことができた。



⑥今後へ向けて

最後の打合せ時、次年度も参加したいという中学生が半分程度いた。今回の参加者を中心にしながら活動を継続することで、本事業の定着化を図りたい。

(3) 子ども文化祭実行委員によるイベント「あなたはどこにいるの？～廃墟脱出計画～」

①経 過：打合せ（リハーサル含む）を全13回実施（7／18～10／25）

②実施日：両日 午前9時30分～12時／午後1時～3時30分（27日は2時まで）

③内 容：おばけ屋敷、迷路、ミッション（館内全体をまわって落とし物探し）

④運営人数：小学6年生13名、広場サポーター3名

⑤成果

子どもが楽しめるブースとして地域に定着し、参加者は延べ492名と文化祭盛況に一翼を担った。実行委員にとっては、大きな達成感を得る機会となった。



⑥今後へ向けて

引き続き実行委員の企画運営をサポートしていく。
また、中学校へ進学後も公民館の行事等で役割を担う機会を創出していきたい。

8. 総括

(1) 取り組み成果

- ・準備開始を例年よりも2週間前倒ししたことで、ゆとりを持って準備ができたと同時に、周知期間を十分にとることができた。
- ・子どもや若者世代の来場者が多かったことから、賑わいや活気のある文化祭となった。
- ・特別企画を通して、中学生や若者世代を対象とする新しい事業の可能性、今後の事業展開を見出すことができた。

(2) 反省課題等、次年度へ向けて

- ・参加団体の固定化や高齢化に伴い、展示品数・出演者数の減少、準備・片付けの人手不足が課題である。また時代の変化に伴い、保育園や小中学校については、文化祭に限らず地域行事への関わり方が難しくなってきた一面もある。
- ・上記の課題解決に向け、公民館と実行委員会の双方で工夫やアイデアを出したり、関係機関との協議を図りながら、次年度の文化祭開催に向けた準備を進めていく。

第52回清和地区文化祭 実施報告

1 開催趣旨

地域団体や地域住民と共に、学習・文化活動の発表、交流の場づくりを行い、地域団体等の活動の発展と活力ある地域づくりを促進するための祭典とする。

- 2 開催日 令和6年11月9日（土）午前10時～午後4時
11月10日（日）午前9時30分～午後1時00分

- 3 会場 清和地域拠点複合施設「おらがわ」

4 取り組み経過

- ・8／29（木）第1回文化祭実行委員会 ※終了後、模擬店物販部門会議実施
- ・10／3（木）第2回文化祭実行委員会 ※終了後、模擬店物販部門会議実施
- ・10／17（木）周知開始（自治会回覧、こども園、小中学校）
- ・11／2（土）全体作業・文化祭会場設営

- 5 来場者・参加者 2日間延べ約1,200人（1日目：800人 2日目：400人）

- 6 参加団体・機関 サークル・地域団体・機関等35団体
（こども園、小学校、中学校含む）

7 特別企画等の取り組み

（1）「20歳のつどい」実行委員による特別出店

- ①経過：「20歳のつどい」実行委員会（5月末～9月末に計4回実施）で、販売内容の検討、試作調理等を実施。

- ②実施日：11月9日（土）午前10時～午後4時（午後1時で完売）

- ③内容：焼きそば、フルーツポンチの販売

- ④運営人数：「20歳のつどい」実行委員・対象者 計7名

⑤成果

- ・両地区の青年たちが協力し合いながら、地域に貢献できる場をつくることができた。

⑥今後へ向けて

- ・清和地区の対象者が減少していく中でも、引き続き小糸地区と協力しながら、青年層が活躍できる場やスポットを当てることのできる機会を創出していく。



（2）ダンボール王国

- ①経過：会議・準備作業 全3回実施（10／14～11／4）

- ②実施日：11月10日（日）午前9時30分～正午

- ③内容：ダンボールを使った遊びコーナーの準備・運営
（キャタピラ、カート、玉入れ、ストラックアウト、空気砲、おぼけトンネル、つみき、自由工作コーナー）

- ④準備・運営参加者数：17名（小学生2名、中学生7名、高校生1名、大人7名）

⑤成果

- ・中学生や SCP の子どもたちに準備に関わってもらうことで、ロコミによる小中学生の来場者を得ることができ、施設に親しんでもらう機会をつくることができた。
- ・未就学児がゆっくり遊べる企画としても好評であり、波はあったものの終了時刻まで来場者が途切れることが無かった。

⑥今後へ向けて

- ・その年の状況に合ったテーマの企画を地域の協力者を募りながら準備・実施していくスタイルは継続していきたい。
- ・文化祭に限らず、中学生や青年層が公民館活動、地域活動に関われる機会づくりをしていきたい。



8 総括

(1) 取り組み成果

- ・幅広い年齢層の来場者を得ることができ、地域の方が新しい施設に親しんでもらうための機会、また参加者や来場者が相互につながりを感じられる機会となった。
- ・これまでのサークル、団体の参加に加え、新しい施設が本格稼働してからつながりを得た団体や個人の文化祭への関わりを得ることができ、地域のにぎわい創出のための一歩を踏み出すことができた。

(2) 反省課題等、次年度へ向けて

- ・コワーキングスペース利用者や循環学校参加者など新しい施設となったことで、つながりを得られた個人や団体も文化祭に関われるよう働きかけをするなど、文化祭がより地域の賑わい創出のための場となるよう進めていきたい。
- ・体験などの催し系の企画が比較的少ないため、参加団体に働きかけをしていきたい。また芸能発表は固定化が続いており、新規団体や個人の参加について検討していきたい。

令和7年（令和6年度） 「20歳のつどい」開催について

- 1 趣 旨 人生の節目を迎える20歳の青年の門出をともに祝い励ます行事を通じて、青年が大人になった自覚を持つことのできる機会、並びに地域の人々との交流を深める機会を提供し、もって青年教育の推進と地域の活性化を図る。

※特記事項

旧小糸中学校と旧清和中学校の学校再編を背景に、今年度から周東中学校区として両中学校区の合同で「20歳のつどい」を開催する。

- 2 主 催 君津市・君津市教育委員会 実施機関 小糸公民館、清和公民館

- 3 対 象 小糸地区在住登録者 57名
清和地区在住登録者 10名
地区外在住希望者 4名
合計 71名 【令和6年11月25日時点】

- 4 日 時 令和7年1月12日（日）14時～15時（式典の部終了予定）

- 5 会 場 周東中学校 体育館

6 内 容

式典の部【司会・進行：実行委員2名】

- (1) 開会のことば【実行委員】
- (2) 国歌斉唱 【ピアノ伴奏：実行委員】
- (3) 君津市民歌斉唱
- (4) 式辞
- (5) 祝辞
- (6) 来賓紹介【実行委員】
市議会議員・自治会連絡協議会・社会教育委員・
公民館運営審議会委員・小中学校の恩師等
- (7) 祝電披露【実行委員】
- (8) 20歳の抱負 ※調整中

- (9) 実行委員紹介
- (10) 実行委員長あいさつ【実行委員長】
- (11) 閉会のことば【実行委員】

～閉会后、集合記念写真撮影～

交流の部

- (仮) 20歳のビンゴ
※文化祭での売上を景品代にあてる。

7 その他

- (1) 実行委員会
 - ・顔合わせを含め実行委員会を4回実施。（今後は12月上旬、1/11リハーサルを予定）
 - ・小糸地区文化祭、清和地区文化祭に模擬店を出店。文化祭を通して地域住民との交流を図ることで、地域でお祝いする機運を高めた。
- (2) 記念品
集合写真（希望者は実費負担で購入）
- (3) 公民館だよりへの掲載
両地区の公民館だより、実行委員・対象者の顔写真とコメント（20歳の抱負）を掲載。
【小糸公民館だより：1月発行予定 清和公民館報：2月発行予定】

再整備に伴う公民館運営の現状と今後の展望 ～清和地域拠点複合施設の事業展開について～

(1)組織と職員体制の概要

- ・清和地域拠点複合施設は、清和地域市民センター、地域活性化センター、清和公民館、清和こども園の側面を持つ。
- ・職員は令和5年度から清和地域市民センター・清和公民館の併任。

常勤正規職員：7名（所長兼館長、副所長兼副館長、副主査1、主任主事3（兼公民館主事1）、主事1）

※別途、地域づくり課兼務職員1（週1程度の勤務）。

会計年度：市民センター2名、公民館1名（社会教育指導員）

※土日夜間職員、用務員を除く。

⇒実際には、市民センター主務職員、公民館主務職員、地域活性化センター主務職員に分かれており、地域活性化に関する事業に関しては、地域活性化センター主務職員を中心にしつつ全員で分担している状況。

(2)施設の特徴

- ・防災拠点としての機能として、停電時も3日程度使える非常電灯、コンセントがあり、体育館についてはガス発電でスポットクーラーが使用可能となるほか、シャワー室を備えている。
- ・工芸室にデジタル木工機器を備えており、今後3Dプリンタの設置も予定。
- ・交流スペース、レンタルオフィスであるワークスペース、コワーキングスペース（10月末現在の利用状況：232件）

(3)事業展開について

職員は併任であり各セクションが協力し合い、一体的に清和地域の活性化を目的として動くことが前提となっている。

【地域活性化に関する市民センター事業】

- ・デジタル工作機器活用事業（委託）
- ・多拠点居住促進・関係人口創出業務（委託）
- ・サイクリスト立寄り拠点強化事業（委託）
- ・交流スペース活性化事業「ふもとの茶屋」（主催）

【関連支援事業】

保育園留学®支援、君津の朝めし、SCP創り隊、空き家活用事業（空き家相談、空き家活用セミナー、清和の魅力満喫アクティビティ）

- ・これらの事業は、これまで公民館が培ってきた人脈や地域情報を活用しながら展開や支援を行っている。
- ・施設再整備のための準備会を重ねてきた流れを継承しており、まちづくり協議会である「コミュニティ清和」との協働により、公民館だけでは手掛けにくかった直接的な

取組が多く、地域への影響が大きいのが特徴。

(4)施設に対する地域住民の声 ※開館記念文化祭でのアンケートより

- ・地域に高齢者が多いのでエレベーターができて良かった
- ・きれいに改装され、明るい施設になってとても嬉しい。しかし、以前の親しみやすい雰囲気ではなくなってしまったのが残念。
- ・清和に住む方の生きがいを高める殿堂になって欲しい。
- ・部屋数が多く、トイレもきれい

(5)今後に向けて

- ・新しい組織のあり方や地域活性化に関する事業の内容は、地域に浸透していない部分があり、地域の方が望む未来像の把握と事業への反映が必要。
- ・地域の方に向け、施設の利用や理解を得ることを目的とした事業展開が必要。
- ・組織が大きくなった分、職員同士の情報の共有が難しくなっているのが現状。職員のチーム力の向上のための工夫が必要。